

1 アンケート回収人数:165人(回収率:76%) 平成20年度回収率:40%

- 昨年度と比較しても回収率が高いのは、昨年度の授業参観の際に記入していただく方式から、生徒を通してアンケート用紙を配り、ご家庭で記入していただく方式に改善したため、多くの保護者の皆様の意見をお聞きすることができました。ご協力に感謝いたします。

【趣旨】この保護者からのアンケートは、学校運営の見直しや改善だけでなく、広く保護者に学校の情報を公開することで、今まで以上に、保護者、地域住民の理解と参画を得て、学校・家庭・地域が一体となり、子供たちがよりよい学校生活を送れるようにするため行うものです。

2 「アンケート項目」から

(1) 評価が高かった設問【「A～D」の4段階評価で「A+B」が85%以上もの】

- ① 教育方針:「学校は、保護者・地域の願いに応えている」
- ② 学習指導:「生徒は、楽しく生き生きと学習に取り組んでいる」
- ③ 生徒指導:「教師は、基本的な生活習慣や好ましい人間関係づくりに努めている」
「教師は、生徒や保護者の相談に親切に応じてくれる」
「生徒は、意欲を持って学校生活を過ごしている」
- ④ 学校行事:「学校は、生徒の成長の糧となる学校行事を行っている」
「生徒は、体育祭、合唱コンクール、校外学習などに積極的に参加している」
「学校では、部活動が活発に行われ生徒の成長につながっている」
- ⑤ 保健安全:「学校は、心身の健康に関する指導を積極的に行っている」
「学校は、安全指導とともに安全な教育環境づくりに努めている」
- ⑥ 家庭連携:「PTA活動は計画的で、協力的な活動を行っている」

(2) 評価が低かった設問【「A～D」の4段階評価で「C+D」が15%以上もの】

- ① 教育方針:「学校の教育方針・目標・重点施策などわかりやすく示している」
「学校は、生徒一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている」
- ② 学習指導:「教師は、学力の向上を目指した指導の工夫を努めている」
「教師は、生徒の努力や能力を適切・公平に評価している」
- ③ 家庭連携:「学校は、各学年に応じて、進路に関わる情報を提供してくれる」
「生徒は、宿題や自主学習など、家庭学習の習慣が身に付いている」

○ 高い評価をいただいた項目について

この数値に満足することなく、今後も引き続き改善を加えながら、よりよい学校づくり、心豊かでたくましい生徒の育成に取り組んでいきます。

● 評価がどちらかというと低かった項目について

【(2)の①について】

- ・年度初めの学級懇談会や PTA 総会時における経営方針の説明だけでなく、学校ホームページや学校便り等を活用して説明していきたいと思えます。
- ・日頃より、学習指導や生活指導、部活動の中で、生徒一人一人のよさを見つけ、可能性を伸ばすための教育活動を行っています。ただ、この結果を真摯に受け止め、学習指導においては、さらに個に応じた指導法や生活面の指導に当たっても、教職員がチームで多面的に生徒のよさ等を見つけ、賞賛していく中で、生徒個々の能力を伸ばしていきたいと思えます。

【(2)の②について】

- ・昨年度より、各教科において、生徒同士の学び合い学習を展開しており、特に今年度は数学や理科、社会科において複数の教師による指導等も実施しています。また、月曜日と金曜日の6時間目(学校裁量の時間)に教科学習を設定し、標準より多い授業時数を確保してきました。

全国学力・学習状況調査や茨城県学力診断テストの結果では、本校は全国、県の平均を上回っています。しかし、平均正答率の分布状態を見ると、まだまだ個に応じたきめ細かな指導が必要です。また、生徒の学習面の評価につきましても、今後一層、評価に関する職員の研修を行い、「生徒の成長、子どもたちのために」という視点で評価に取り組んで参ります。

【(2)の③について】

・一昨年の保護者アンケートの結果を受け、昨年度は「進路便り」を保護者へ配付しましたが、学校よりの配付文書が多いということで、今年度は「学年便り」の中に、進路コーナーを設けて進路指導の充実に取り組んで参りました。キャリア教育等が叫ばれている今、情報提供がまだ満足できるものではないと感じております。今後、各学年の発達段階に応じた進路学習、保護者等への情報提供に取り組むとともに、より充実した進路学習を構築していくため、保護者や地域住民の皆様のご協力をお願いすることもあるかと思えます。その際は、よろしくお願ひいたします。

また、家庭学習の習慣化について、今年度はやや低い数字(全国学力調査結果より 家庭学習の時間2時間以上の生徒 H19:30.9% H20:34.6% H21:28.8%)でした。そこで、「家庭学習の手引き」を作成しましたので、それを活用し、家庭学習の課題を適切に与え、ご家庭の協力も得て、家庭学習の習慣化を図って参ります。

3 「本校教育についての日頃の考えやご意見」から

(1) 新型インフルエンザで授業がなくなった分の学習の補習と今後の対策について

本校では、今年度当初から、月曜日の6校時の学校裁量を授業の補充に生かして参りました。また、12月からは、金曜日の6校時の学校裁量も使い、不足した授業時数の確保にあててきました。年間の学校裁量で補える授業時数は約35時間です。10、11月の新型インフルエンザによる学年閉鎖、学級閉鎖で失われた時間を合計すると、残り7時間の授業時数を確保する必要があります。今後の予定としては、1月の4週目に1日7時間の授業を実施し、その後も月曜日の6校時を授業に当て、授業時数の確保をしていきます。保護者の皆様には、この度の学級・学年閉鎖に伴い、授業時数の確保等、ご心配をおかけいたしましたこととお詫びいたします。

(2) 教科書を終わらせること以上に、内容の定着を目指してほしい

授業は、教科書を使用して行っていますが、私たちはその基となる学習指導要領にそって学習活動を行っています。また、学習の定着を検証する各種のテスト等も行い、どのくらい学力(身に付けなければならない学習内容)が身に付いたかを測っています。麻生中学校全体としては、全国や茨城県の学力調査結果と比較すると、その数値は上回ってはいますが、生徒一人一人に目を向ければ、まだまだ改善すべき点があります。したがって、前述したと通り、個に応じた学習指導(習熟度別指導や少人数指導、発展的な学習や補充的な学習など)を今後も充実させ、より確かな学力の定着を目指して参ります。

(3) 子どもたちの小さな変化を見逃さず、一層の気配りを願ひしたい

今年度、いじめについての報告は1件あり、現在は解消しています。いじめについては「人間として許されない行為、見て見ぬふりをしている者も加害者である」という指導スタンスで臨んでいます。今後も、道徳教育を核とし、全教育活動を通して、いじめの根絶に取り組んでいきます。

また、子どもの小さな心の変化については、授業中、休み時間、放課後、部活動等、子どもたちとの触れあいの時間を確保し、その中で子どものサインを見逃さないよう取り組んでいきます。また、教師一人の目だけでなく、全教職員で子どもたちの健全な成長を見守り、伸ばしていくために情報交換をはじめとして、具体的に対応していきます。

(4) メールで部活動の連絡が回ってくる。携帯電話使用についての学校の意見

学校からはメールによる配信はしていませんが、子どもたちの中で、電話ではなく、メールを使い、連絡を回しているのだと思います。学校側が子どもたちの状況を十分把握しておらず、ご迷惑をおかけした点についてお詫びいたします。

さて、携帯電話ですが、最近、「ネット上のいじめ」や「有害サイトへのアクセスによる被害」等の問題が起こっています。学校としては、携帯電話の学校への持ち込みは禁止しています。また、携帯電話の利用については、学校において「情報モラル教育・人権教育・著作権等の使用する上でのマナーやルール」について指導しています。ご家庭でも、家庭における利用のルールやフィルタリングについてはお願ひいたします。

(5) 生活面での厳しい指導はありがたいが、指導方法の工夫改善を

事案によって、指導のスタイルは変化します。つまり、その行為の背景や及ぼす影響、事の重大さにより、本人だけではなく、保護者の方にもお話をし指導していくこともあります。ただし、「子どもの健全な心と体の成長（人間としての人格の完成、国家・社会の形成者としての資質を育成する）のため」、「教師と生徒、保護者の信頼関係づくり」を指導の原則としています。

教師によって、指導のスタイルは様々ですが、原則を忘れず、子どものことを一番に考えた指導でなければなりません。指摘のあった、厳しい指導ですが、第三者がどこから見ても、誰が見ても「適正な指導」と認められるよう、様々な事例研修を通し、指導法の工夫改善をしていきます。

(6) まゆを剃ったりする生徒のいないように、もっと厳しく指導を

「まゆ剃り」に関しては、「やってはいけない行為」として指導をしていますが、そのような事実があったことについて、学校側の指導が行き届かず、不愉快な思いをさせたこととお詫びします。

早速事実を確認し、状況を把握して指導をしていきます。なお、指導については「もっと厳しく」という指摘がありましたが、その子の発達段階、生活環境等の実態を考慮し、その子の成長に最善という指導方法で対応していきたいと思っておりますのでご理解をお願いいたします。

今後も、学校の指導のあり方等についてご意見やご要望がございましたらご連絡をいただければ幸いです。

(7) 部活動で、子どもの体調管理をみてくださる先生方には、応急処置の知識を学んでほしい

私たちも、応急処置については学んでおかなければと日頃より考えています。私たちが学んだ応急処置は、消防署の救命救急士から「心肺蘇生法」「AEDの使い方」を教えていただいたものです。例えば、茨城県教育研修センターが行う「スポーツ医・科学研修講座」等を受けた者は少数なので、今後、国や自治体、医療機関との連携協力の下、教員の応急処置等の研修も必要と考えます。来年度すぐに実施とはいきませんが前向きに取り組んでいきたいと思っております。（学校には「AED」は設置済）

さらに、大切なのは、お子様の健康管理につきましては、部活動開始前に十分顧問が体調の観察をするということ、また、ご家庭でも健康面の管理に留意していただき、部活動の目的が達成できるようご協力をお願いいたします。

(8) 生徒数が減少しているにもかかわらず部活動の数が多いため、人数が少なく成立しない部活動もあるが、今後の取り組み・方向性について

現在、部活動18（運動部活動：14，文化部活動：4、但し、男女別、休止中の部活動を含む）です。この部活数は、生徒数が800名を超えていた頃と変わりなく、生徒数が242名となった今、ご指摘の通り部活動の運営に無理が生じてきています。昨年度末、見直しの動きがありましたが廃部するまでには至りませんでした。それは、部活動への加入は、子どもの自由意志であり、自分がやりたい部活動をやるのが基本であるからです。ただし、そのために十分な活動ができない部活もあり、相反するこの課題解決は難問であり、保護者や地域の皆様のご理解が必要です。

そこで、今後の部活動数の方向性ですが、平成24年度、麻生中学校は麻生第一中学校と統合する予定ですので、22、23年度については、現在のまま継続確保し（人数が少なく休部する部や満足な活動ができない部があることは生徒、保護者の皆様にご理解いただき）、24年度の統合時に部活動を再編していきたいと考えています。